

クリムソクローバー (*Triforium incarnatum* L.) の促成栽培に関する研究
(第2報) 日長及び夜温が開花に及ぼす影響

○中村 薫・八反田憲生
(宮崎総農試)

南欧州原産のクリムソクローバーは飼料用作物だが、近年、切花として利用されるようになり、‘ストロベリーキャンドル’という名で知られている。演者は前報(九農研.56.1994)で冷蔵処理苗を用いて長日処理効果を明らかにした。今回は無冷蔵苗での長日処理と管理夜温が開花に及ぼす影響を検討した。

【材料及び方法】

播種は2002年9月3日に行った。播種容器は4cm角の72穴セル成型トレイとし、用土はメトロミックスを用いた。9月24日に10.5cmポリポットに定植した。用土はMKK野菜育苗用土と細粒ボラ土の混合用土とした。播種30日後の10月3日から日長および管理夜温について処理を開始した。日長は自然日長区と、5時から21時まで明期の16時間の長日処理を行なった長日区とを設けた。さらに、それぞれの日長処理区の中に管理夜温を0℃、10℃、15℃、20℃の4区を設けた。長日処理は園芸用の白熱電球を用い、設置方法はキクに準じた。試験は硬質フィルムハウスで行ない、昼間は25℃を目標に管理した。調査は1区1株の16~17反復とした。調査は2003年2月末日で終了した。

【結果および考察】

処理を開始した10月3日の葉数は5枚、株径は9.6cmであった。長日処理を行なった区は、いずれも処理開始の約1ヵ月後から花茎の伸長を開始した。また、いずれの管理夜温でも1月末までに全ての株が開花した。一方、自然日長区では2月末日までにまったく開花しなかった(第1表)。

長日処理を行なった区において、処理開始後の

到花日数が20℃区が63日であるのに対して、他の区はやや長く、77日前後であった。収穫期間は20℃区が最も長く22日であったのに対し、他の区は15日以下であった。切花長は20℃区が50cmと最も短く、0℃区と15℃区が約70cm、10℃区が80.6cmであった。切花本数は管理夜温による差は認められず、何れの区も7~8本であった。切花の切花長別割合では0℃、10℃、15℃の3区が60~80cmの階級が最も大きいのに対し、20℃区は40~60cmの階級が大きかった。

以上のことから、クリムソクローバーの開花には長日が必要であること、低温は必要でないことが明らかになった。また、長日条件下での管理夜温は20℃では開花が早まるものの収穫期間が長く、切花長が短くなる傾向があることから実際栽培には適さないと考えられた。暖房経費面を考えると0~10℃が適当と考えられた。

第1表 日長及び管理夜温が開花株率に及ぼす影響

処理区	開花株率(%) ^z		
	日長	管理夜温	
自然日長		0℃	0
		10℃	0
		15℃	0
		20℃	0
長日 ^y		0℃	100
		10℃	100
		15℃	100
		20℃	100

z: 調査期間 2002.10.3~2003.2.28

y: 5:00~21:00明期の日長延長法で16時間日長

第2表 長日条件下^zにおける管理夜温の違いが開花開始日、長日処理開始後^yに到花日数、収穫期間、切花長、切花本数に及ぼす影響

管理夜温	開花開始日		長日処理開始後 ^y に到花日数		収穫期間		切花長		切花本数	
	(月.日)		(日)		(日)		(cm)		(本)	
0℃	12.18 ± 9 ^y	9	76 ± 9	9	15 ± 12	12	71.7 ± 6.5	7 ± 2	2	
10℃	12.20 ± 12	12	78 ± 12	12	12 ± 8	8	80.6 ± 9.1	8 ± 2	2	
15℃	12.18 ± 12	12	76 ± 12	12	13 ± 6	6	70.6 ± 13	8 ± 2	2	
20℃	12.06 ± 5	5	63 ± 5	5	22 ± 12	12	50.0 ± 7.6	8 ± 2	2	
有意差			* x		*		*		n.s.	

z: 5:00~21:00明期の日長延長法で16時間日長

y: 平均±標準偏差

x: 1元配置分散分析により5%水準で有意差あり